

ふれあい雪谷

平成26年 10月 もみじ号 通巻第96号



笹丸・絵手紙の会

今も心に

近所を散歩するたび、塀や電信柱の張り紙が目にはいる。震災で飼い主を亡くしてしまった犬の里親捜しのチラシだ。特徴や推定年齢の書かれたそれを、私はじっと立ち止まって読む。なんともいえない可愛らしい表情に、思わず心が動くことがたびたびだ。そしてそれとともに、必ずといっていいほど、数年前に亡くなった愛犬が思い浮かぶ。

人間でいえば百二十歳ほどにあたる高齢まで生きた長寿犬だ。思春期から大人へ、暑い日も寒い日も一つ屋根の下で一緒に過ごしてきた。いなくなって数年経つのに、庭に白い影がふっと横切ると「ああ、チコ」と自然に名前を呼びそうになる。それはたいがい無断侵入してきた野良猫だったりするのだが、どうしても強く追い払えない。

一番よく憶えているエピソードは私が大学生のときだ。寝坊して遅刻しそうになって慌てて家を飛び出すと、犬が歩道ぎわをふらふらとのんびり歩いていた。（おや、可愛い犬だな）と思ったが、なにぶん急いでいたのでそのまま通り過ぎようとした。しかし、なにかおかしい。リードをしていない、飼い主も・・・見当たらない。よくよく見ると、なんとわが愛犬ではないか。ぎょっとして思わず名前を呼んだが、私の顔を見ても悪びれることなく、のんきな顔をしてまたフンフンと歩道を嗅いでいる。あせった私は首輪を握って急いで家まで連れ帰った。遅刻しそうだったがそれどころではなかった。学校に着き、あまりにも悪びれない顔をしていた愛犬の顔を思い出すと、可笑しくて可笑しくてしょうがなかった。あんなに父が脱走しないように庭を工夫していたのに・・・。あの子はたびたびああやって自由な外出を楽しんでいたのだろうか。帰宅して家族にそのことを伝えると大騒ぎになった。が、自分のことが話題になっているのも知らずにのんきな顔の愛犬、可笑しくてしょうがなかった。

他にもいくつもエピソードはあるのだが、散歩中に張り紙の前で立ち止まると、いろいろなことを回想する。今でも、家のどこかにいるような気がしてならない。そして、また飼いたいと思うとき、ものすごく嫉妬深かった愛犬の性格を思い出すのだ。

（東中・秋山紘子）

編集後記

小池自治会からの編集委員を仰せつかり3年が経過いたしました。現役時代は、作業着と安全靴を持参して全国のセメント工場・鉱山・生コン工場等の通信設備技術指導を行うブルーカラーで育った人間がこの編集委員が務まるか不安でしたが、諸先輩の編集委員の指導を受けながらここまでつとめてきました。

各地域には、文才・画才等に優れた方が未だ多くおられることを知りました。来年のもみじ号で通巻第100号を迎えます。これからも自薦・他薦は問いません、どうぞ各地域の編集委員にお申しいただき、充実した地域情報誌「ふれあい雪谷」になることを願っております。

（小池・原龍興）

ふれあい雪谷(創刊:平成2年(1990)12月20日) 年4回発行
(1月:新年号/4月:さくら号/7月:あさがお号/10月:もみじ号/の1日発行)
[発行日] 平成26年(2014年)もみじ号 10月1日(通巻:第96号) 発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集] 「ふれあい雪谷」編集委員会
[連絡先] 雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/

ウォーキングを楽しむ



「いつも元氣ねー」「ハイお陰さまで」これが街で知人に出会った時のいつもの会話。皆私が健康で元氣いっぱいに見えらうしい。私自身もそう思っていた。

しかししょんな事で病院での検査に引っ掛かり今は食事療法と毎日のウォーキングを課せられた。夫もリタイア後早朝ウォーキングを。私は夕方涼しくなってから毎日約一時間歩いていきます。日曜日だけは、二人一緒に早朝に行きます。

お気に入りのコースは緑が丘の緑道や多摩川台公園です。季節の草花を眺めたりミニ森林浴も楽しめます。

色々な家々や変わった名前の表札を発見したりして会話しながら歩くのも楽しいひと時です。

途中町並みを歩いている時住居表示の札と並んで小判型の石の表札に昔の町名がそのまま残してある家を何軒か見かけました。何ともほんわかした気持ちになりました。「ここは昔こう言う町名だったのだ」としみじみ。

神田明神地域では神田同朋町とか宮本町等昔の町名の由来を書いた看板があるそうです。今の住居表示は南〇〇とか北〇〇と事務的な響きで寂しい限りです。公園で植木や草花に名札がついていると「これ何という名？」と覗いてみるがどれも力タカナ表記で味気ない。漢字表記だと意味もすぐ解り良いのになと思ったりして・・・。

病気がきっかけですがウォーキングを楽しんでいる今日この頃です。

（雪谷石川台・越野千代子）

介護や生活の相談はお気軽に！

地域包括支援センター（通称…さわやかサポート）は、介護やその予防等に関する、地域で最も身近な区の相談窓口になります。さわやかサポートの主な業務としては、

- ・高齢者の介護・生活相談、各種制度のご案内
 - ・要支援、要介護にならないための相談支援
 - ・要介護認定申請等、高齢者サービスの申請代行
 - ・介護保険で要支援1、2と認定された方のケアプラン作成の申し込み
 - ・地域のケアマネジャーへの相談、支援
 - ・各種講座、セミナー等の開催、支援
- 等、多岐にわたったご協力をさせていただきます。お待ちしております。

現在、区内に20ヶ所のさわやかサポートがあり、ご自宅まで訪問させていただきます。「さわやかサポート」の担当している地域は雪谷特別出張所管内になります。介護や予防等についてのご相談に、専門的、且つ総合的な視点でお応えし、その人らしい自立した生活を送ることが出来る様、生活状況や変化に応じて継続的に支援させていただきます。

月曜日 金曜日 9時～19時 土曜日 9時～13時までが相談窓口開設時間となります（日、祝日、年末年始は休み）。ご相談は無料。

介護問題をひとりで抱え込まないで、日頃の悩みや不安をお気軽ににご相談下さい！

（さわやかサポート上池台センター長・洲上虎平）

「更女（こうじょ）」ってご存知？

更生保護女性会の略称で主な活動としては、保護司会との連携・社会貢献活動・社会を明るくする運動への参加・ミニ集会の実施・子育て支援活動及び講演会開催・日帰り、宿泊研修・更生保護施設の慰問等です。これらの活動の中で女性としての経験を活かし、犯罪のない明るい社会づくりのボランティアとして、活動をしている更生保護女性会を略して「更女」と称しています。更生保護女性会は全国的に組織され、日本更生保護女性連盟、各地方更生保護女性連盟・及び都道府県に各更生保護女性連盟があり、東京更生保護女性連盟の傘下に、大田区更生保護女性会があり、現在の会員数は620名ほどです。



「日本更生保護女性の集いに参加して」

「支えあい、ともに輝きその先へ」をテーマに第50回記念「日本更生保護女性の集い・祝賀会」が平成25年6月17日午後

6時より帝国ホテル「富士の間」に於いて、皇后陛下のご臨席を賜り開催されました。

全国各地から200名の法務大臣感謝状受彰者が招かれました。大田区では横山智恵子副会長と岡村も私の2名が推薦されました。当日は各担当ごとにリハーサルがあり、皇后陛下をお出迎えする係、歓談をする係、私はお見送りの係としてリハーサルに臨み、皇后陛下がご臨席になられるその時刻を、ワクワクしながら待ちました。

やがて富士の間の扉が開き、日本更生保護女性連盟会長・狩野安様の先導で皇后陛下がお入りになされました。お出迎えを担当の左右の方々に、にこやかに微笑みかけながら、金屏風の所定の位置へと歩まれました。皇后陛下の凛としたお姿を間近に拝見し、同じ空間に居られる幸せに感動と感激に胸が熱くなり、涙を堪えるのがやっとでした。

皇后陛下は予定の時間を過ぎてもおな、歓談されて、お帰りの際にはお見送り係の私たちに「お疲れになりませんか」と優しくお声をかけて下さいました。今も皇后陛下の優しいお声が耳の奥に残っております。私には人生最高に光栄な一日でした。今後も微力ながら、更女の活動を続けていきたいと思っております。更女の活動にご理解と参加協力をご希望の方のご連絡をお待ちしております。

(東雪・永久保初葉)

付記＝永久保初葉さんは平成25年度・法務大臣感謝状を授与されました。現在、大田区更生保護女性会の副会長をされております。なお、「日本更生保護女性の集いに参加して」は(大田更女だより・平成26年5月1日発行)より引用しました。

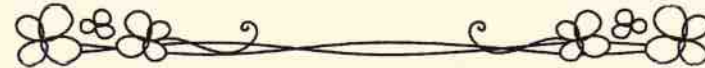
(東雪／N・Y)

～投稿文～

心の病が広がっていることをご存知ですか。

NHKのドラマ「サイレント・プア」が話題になりました。ソーシャルワーカーさんが地域の「困った問題」に全力を尽くして取り組む内容で、ホームレス、認知症、引きこもり、外国人の貧困などなど。「サイレント・プア」とは見えない貧困、沈黙の貧困と受け止めればいいのでしょうか。＜引きこもり＞では30年以上も引きこもる50代の息子に疲れ果てている両親。こうした問題がドラマにも登場する程、無視できない状況になっているのです。

我が家の次女も人間関係につまずき仕事を転々とししました。そのうち昼夜逆転、引きこもり状態となり、注意すると「こうなったのは両親のせい」と噛みついたり、物を投げたり・・・何かがおかしいと精神科クリニック受診。入院を機に「家族会」が有ることを知りました。そして家族の問題に悩む人の多いのにもビックリです。社会的、経済的には申し分ないのにこうした不安を抱えている場合も少なくありません。(問題があっても生活に追われ情報に辿り着かない場合もあるでしょう)。



目まぐるしい社会の変化、学歴と競争社会、少子化の中で膨らむ子どもへの期待。そして自己責任、世間体にながらめの中で孤立化する家族。助けを求めるすべも見つからず疲労の限界に達している場合もあります。「人間の脳は巨体を有した恐竜よりも重いか。それだけ繊細で多感、豊かさと、脆さを合わせ持っているということでしょうか。」

長い間の先輩・家族の方々の運動などの結果、一昨年「精神病」は国民の五大疾患に位置付けられました。しかし、それからの改善はまだまだといえます。診断、薬、入院、社会復帰、それぞれの段階で人員と技術、予算など問題は山積みです。

すでに当事者は60代。親亡き後の対応が急がれる場合もあります。それは戦後の復興にガムシャラに心を置き去りに開発に突き進んできた時代とも重なります。

また今は、幼い頃からの情緒不安定も指摘されています。でも大丈夫！こうした家族が集まり「自分だけじゃない」ことを知り、力を合わせれば必ず解決への道は開かれると思います。「心の健康回復」私も少し、そのお手伝いをさせて頂いています。窓口は保健所です。

(笹丸・古怒田幸子)



スポーツ健康都市宣言記念事業第31回大田区民スポーツまつり
雪谷地区9自治会スポーツまつりが開催されます！！

日時 平成26年10月5日(日)

場所 小池小学校 校庭(雨天時は体育館)

時間 午前9時30分

当日の参加も可能ですので、奮ってご参加ください！

「ここに消火器がある。写真を撮って！」

～大田区初のまちなか点検・大森第六中学校～

平成26年7月7日(月)大森第六中学校の2年生、区域にある各自治会の方々、ボランティアの大学生、消防署、消防団、大田区防災課がまちなか点検を行いました。中学生と地域の方々が一緒になってこの点検をするのは大田区でも初めてで、事前の打ち合わせを何回か行い当日を迎えました。



まちなかを点検しました

自分達の住んでいる11の自治会ごとに中学生を6～8人のグループに分け、リーダー・サブリーダー・カメラ係・記録係と仕事を分担しました。この21のグループに地域の方や大学生、消防団、消防署の方が加わり防災という視点で10名ほどのグループで町を1時間ほどかけて歩きました。もし大きな地震があったとしたら危険な場所はどこだろう、また避難するとき注意しなければならぬ点はなんだろうとみんなで話をしたり、防災倉庫を開けて見せていただいたり、避難場所の確認をしたり、自分たちの住んでいる町の強みと弱みを目で見えて確かめ耳で聞いて地域の方と一緒に

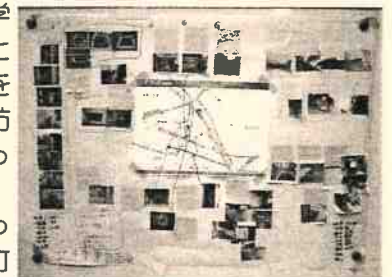
点検をする作業はお互いにとても新鮮だったと思いました。普段何気なく歩いている町を防災という視点で改めて見ると新しい発見が沢山ありました。

消防団の方の詳しい説明で、消火栓や消火器が町の中にいくつも設置されていることを知り、防災倉庫の中にはいざというときの食料やポンプなどがきちんと並べられているのを見て防災に対してしっかり整備されていることを皆で確認することもできました。



たくさんの発見がありました

当日は小雨模様でしたが、町の強みと弱みになりそうな点をしっかりカメラに収め、メモをとり、学校に戻りさっそく地図の中にまとめ、各グループのリーダーが発表をしました。地図上に書き込まれた防災に役立つ情報は、地域の方にきくと役立てていただけたと思います。そしてなにより、やがて社会を担っていく中学生が地域の方々と共に町を歩いて情報を集め、一緒にこの体験をしたことに大きな意義があったと思いました。



完成した防災地図

(大森第六中主幹教諭・五十嵐文)

